



ボン＝ライン＝ズィーク大学

Hochschule Bonn-Rhein-Sieg,
University of Applied Sciences



ドイツ連邦共和国

●学部学生 8,001人 (2016冬学期)

ホームページ <https://www.h-brs.de/de>

交流協定締結年月日：2000年12月15日

主管学部：創造工学部



工学部協定校訪問の様子



キャンパス(ザンクト・アウグスティン)



ライン川沿いの遊歩道

国際交流の特色

ボン＝ライン＝ズィーク大学 (Hochschule Bonn-Rhein-Sieg) はノルトライン＝ヴェストファーレン (NRW) 州ボン郊外ザンクト・アウグスティン (Sankt Augstin) とラインバッハ (Rheinbach) のライン川を挟んだ2つのキャンパスに分かれ、経営学と工業技術を中心として、実践的な知識と技術の研究を目指す大学です。ボンは旧西ドイツの首都であり、現在の首都であるベルリンに移されるとき、この地方への代償措置として1995年に新設されました。大学の基本方針として「国際的 (international)、実践志向 (praxisorientiert)、学際的 (interdisziplinär)、そして女性に対して公正 (frauengerecht) である」ことを掲げおり、数多くの外国人留学生を受け入れています。工学部では、国際インターンシップによる学生の相互派遣を行っています。

交流実績 (平成29年度～31年度)

年度	H29	H30	H31
受入・派遣			
学生の受入	0	1	1
学生の派遣	1	1	1
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0

私は2019年9月から4カ月半の間、ボン＝ライン＝ズィーク大学で国際インターンシップ派遣生として研修させていただきました。国際色豊かな大学で定期的に交流イベントを催していたため、様々な国の人たちと友達になることができました。また、スタディバディ制度があり、留学に必要な難しい手続きは全て援助してくださいました。担当の教授はとても親切な方であり忙しい期間でもよくお世話をしてくださったので、円滑に研究を進めることができました。研究とは別にドイツ語、ビジネス英語、無線通信の授業も受けさせていただき、工学的な分野だけでなく様々な知識を身につけました。ボンは程よく大きな都市で、友達と映画を観たりショッピングに行ったりと毎日充実した生活を送りました。休日は様々な都市のクリスマスマーケットや国外旅行を楽しみました。海外に一度も行ったことがなかった私でしたが、周りの人に恵まれたこともあり問題なく海外生活を送ることができました。留学を通して、様々な国の文化を理解したり社会問題について深く考えるようになったりと、価値観が大きく変わりました。日本でいれば絶対に気づくことがなかった発見がたくさんありました。自分自身が大きく成長したと感じる4カ月半でした。この経験は必ず将来に活かすことができると思います。海外生活はめったに出来ない貴重な経験なので、ぜひ後輩の皆さんにも挑戦して欲しいです。

工学研究科 和田 紗月

学生からの声

私は平成25年9月末から約3ヶ月間、ボン＝ライン＝ズィーク大学で国際インターンシップ生として研修をさせていただきました。私の配属された研究室には、異なる研究のバックグラウンドを持つ多くの学生・研究者の方が所属しています。研究活動を通して、工学的な専門知識を得たり、語学力の向上を図るだけではなく、異国の文化に直に触れることで、自分を見つめ直し、新しい価値観を得ることができたと思います。

初めての海外生活は、毎日が新しい経験の連続でした。したがって、日常は大変目まぐるしく退屈している暇がありません。もちろん楽しいことばかりではありませんが、日々の何気ない出来事一つ一つが、私にとってかけがえのない経験となり自分を強くし、成長させてくれたと感じています。きっかけは人それぞれだと思いますが、「行ってみたい！やってみてほしい！」という素直な気持ちが1番大切だと思います。後輩のみなさんにもぜひこの制度を利用して、素晴らしい経験をしてきてほしいと思います。

工学研究科 清家 都宏